

芦屋室楽合奏団

第六回定期演奏会

1969年9月21日(日)午後6時半 芦屋市民会館

ごあいさつ

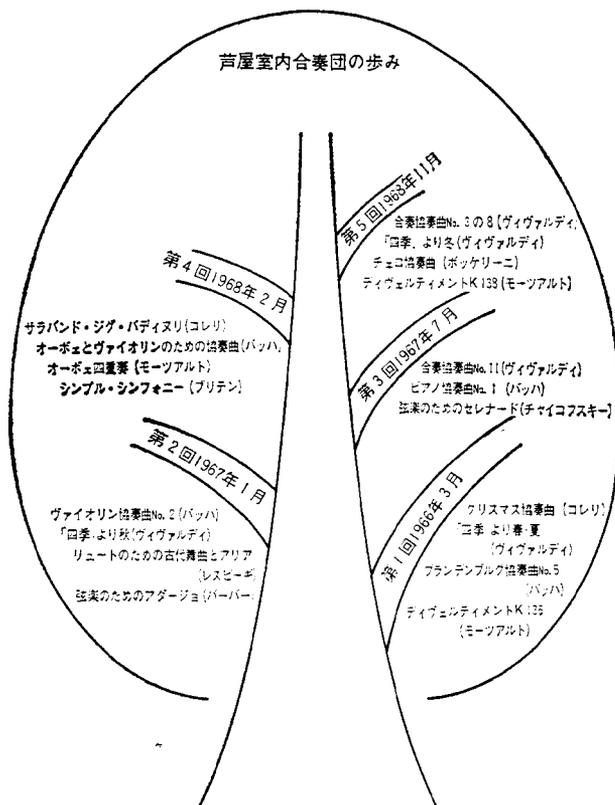
私共は、学生時代に **Harmonie** を楽しんだ **OB** や **OG** がその味を忘れられず、同好自然に集まったグループです。

発足以来かれこれ五年、その間熱心なときもあり、サボッている時もありましたが、ともかく十数人の若い人達が浜町の練習場へ、あたかも奈良の鹿寄せのように集まって練習を楽しんでまいりました。私も子供のような若い人達に混って合奏することが楽しくて、楽団のお世話をしてまいりました。今回は肩こりのため休ませていただきましたが、まだまだ頑張って若い人達を見失わないように行くとつもりです。

このたび、テレマン・アンサンブルより延原武春氏ほか管楽器奏者をお迎えし、第六回の定期演奏会を催すことになりました。夕刻より開催いたしますので、散歩がてら、どうぞお揃いでお運び下さいまして、未熟ながら精一杯のところを聴いてやって下さいますようお願いいたします。

1969年9月

芦屋室内合奏団 橋 本 宗 夫



プログラム

指揮 延原武春

I パーセル 組曲「アブデラザール（モール人の復讐）」

II パーセル トランペットと弦楽のためのソナタ ニ長調
Tnp. Solo 池田 俊

— 休憩 (15分) —

III テレマン 3つのヴァイオリン、弦楽と通奏低音のための協奏曲
へ長調

Vn. Solo 鳥丸安雄
伊藤耕平
谷江恭子

IV テレマン ブロックフレーテと弦楽合奏のための組曲
イ短調

Bl. Fl. Solo 北山 隆

V テレマン 弦楽と通奏低音のための序曲「少女」

(現姓不明 原姓不明)
（ソナタ）
↓ 現姓不明 教授

かいせつ

ヘンリー・パーセルは、17世紀後半に現れたイギリスの天才的な作曲家であつた。36才での夭折はイギリスのモーツァルトともたとえられる。オペラ「ダイドとイーニラス」は最高の傑作として有名であるが、劇附随音楽よりの組曲「アブデラザール（モールの人の復讐）」も、二曲目が現代の作曲家ブリテンの「青少年管弦楽入門」の原曲であるためよく知られている。

「トランペット協奏曲」における華かさ、優美さは、当時のイタリア音楽の影響と思われるが、二つの作品を通じて流れる旋律の美しさは、パーセル独特のものである。

ゲオルク・フィリップ・テレマンは、18世紀初めに活躍したドイツの作曲家であり、当時はバッハより著名な音楽家であつた。その作品も40曲のオペラをはじめ、600曲の室内楽曲等きわめて多数のものがある。「ブロックフレーテの組曲」の荘重なバロック・スタイルとともに、有名なターフェル・ミュージックよりの「3つのヴァイオリンの協奏曲」の純粋な美しさをもつ旋律は、歌うことが音楽の根本だと主張したテレマンの音楽をよく表わしている。

二 客 演 二

指 揮 延 原 武 春

- 1963年 大阪テレマン・アンサンブル結成
 - 1666年 大阪音楽大学卒業（オーボエを鈴木清三氏、虎谷迦悦氏、室内楽をバイエルライン夫妻に師事）
 - 1966年 第1回リサイタル
 - 1966年 大阪テレマン・アンサンブル第4回演奏会に対し '66年度大阪文化祭賞受賞
 - 1968年 第2回リサイタル（'68年度大阪文化祭賞受賞）
 - 1969年 東京リサイタル
- トランペット独奏 池 田 俊（テレマン・アンサンブル）
 ブロックフレーテ独奏 北 山 隆（テレマン・アンサンブル）
 チェンバロ 宮 島 登 美 子（テレマン・アンサンブル）

二 メ ン バ ー 二

第一ヴァイオリン

- 鳥丸安雄（神戸大卒・早川電機）
- 伊藤耕平（甲南大卒・松下電産）
- 藤本恭子（神戸大卒・塩野義製薬）
- 加茂野真理（関学大卒・竹中工務店）
- 芝田英夫（東京工大卒・神戸製鋼）

第二ヴァイオリン

- 谷江恭子（神戸女学院大卒）
- 丹羽順子（大阪音大卒）
- 松村伸子（関学大卒・大阪大）
- 億川ひな子（上智大卒）

ヴィオラ

- 富田良吉（神戸大卒・阪急不動産）
- 青柳良（神戸大卒・六和銀行）
- 大沢康介（東京大卒・IBM）

チェロ

- 石井博（東京工大卒・神戸製鋼）
- 平島直子（神戸大・関学大卒）

コントラバス

- 中島良能（神戸大卒・IBM）

◦印はパートリーダー

